

高野温子 主任研究員

昨年3月に本欄で、日本産シソ科タツナミソウ属新種候補を二つ抱えているという話を書きました。

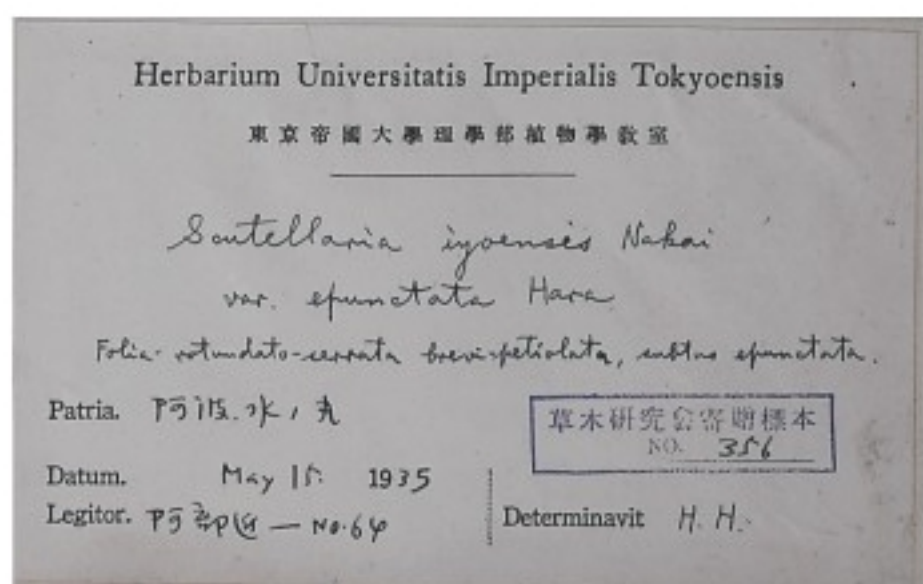
その後、無事に記載論文が受理され、今月出版されることになりました。正式に新種として認められたということです。

一つはシコクタツナミソウ (*Sepunctata*)、もう一つにはキビノタツナミソウ (*Scitibensis*) という名前を付けました。

現時点では前者は徳島、香川、愛媛県に1カ所ずつ、後者は岡山から広島、島根県と中国地方



シコクタツナミソウ タイプ標本 (TI-002187051) の標本ラベル。東京大学所蔵。



意味する学名 (*Scutellaria iyoensis* Nakai var.

epunctata H.Hara) 、ハナタツナミソウとの識別形質を表すメモ (*Folia rotunda*

dato-serrata brevipetiolata, subtus epunctata) が書かれていました。このことから原先生はこの標本の植物、をハナタツナミソウの新変種と認識し、発表されるおつもりであったことが伺えます。

ですが、ついに論文を発表することはなく、ラベルに残された学名も未発表のまま現在に至りました。

その後、四国ではハナタツナミソウと混同されてきました。今回行った分子系統解析によって、シコクタツナミソウはハナタツナミソウに近縁だが独立したグループであることが示されたため新種として記載を行いました。したが、原先生に敬意を表して種小名の「*epunctata*」はそのまま採用しました。

「*epunctata*」は「点状の」「点々がある」という意味のラテン語「*punctata*」に「外へ」を表す接頭辞「*e*」がついて、「点状でない」という意味を表す語です。

ハナタツナミソウは葉の両面に、黄色い腺点が一面に点々であることが特徴の一つですが、シコクタツナミソウの葉にはそのような腺点がないことを示したかったでしょう。

キビノタツナミソウは、岡山ではハナタツナミソウと、広島ではヤマジノタツナミソウと混同されていましたが、分子系統解析と外部形態の解析により独立した分類群であることが明らかにになりました。

今回の2新種は、似た植物に紛れて見過ごされていたので、日本は植物についてよく調べられた国ですが、こんな形の新種発見はまだまだ続きそうです。

ひとく
研究員
だより

新種発見

類似種と混同された植物